

B5頁	場-No.	役名	台詞	
1-1	1-6	Philip	いろいろ聞してるよ。	7/1
	1-7	Oliver	え？—いろいろ	7/1
	1-8	Philip	君のこといろいろ。—	6/30
	1-9	Oliver	まいったな。—	6/30
	1-10	Philip	全部いいこと。—	6/30
	1-11	Oliver	ならよかった。—	6/30
	1-15	Oliver	その必要はないよ。	6/24
	1-40	Philip	氷と水？	6/30
	1-41	Oliver	ぜひ。—	6/30
1-4	1-53	Philip	まあ、おかげで彼女は大忙し。妙な生きもののスケッチがあちこちに散らばってる。このあいだなんか、ぎょっとする絵がバスルームにあった。頭が二つあるアンテロープみたいな。実にそそられる。—	6/24
1-6	1-96	Philip	お出しました。	6/30
1-10	1-176	Sylvia	でもその二年後、ロジャーが——	6/30
	1-177	Philip	兄のね。—	6/30
	1-179	Philip	事故でね。兄のね。	6/30
1-11	1-187	Sylvia	フィリップはそういう突拍子もないことを考えるの、移住だなんて。—	6/30
	1-188	Oliver	興奮するね。—	6/30
	1-189	Sylvia	オーストラリアとか、カナダとか、そういうところ。—	6/30
	1-190	Philip	新天地へ。—	6/30
1-13	1-241	Oliver	大した話じゃないよ。何ならまたいつか。—	6/30
	1-242	Sylvia	そこでオリヴァーにあることが起きたの。神秘体験って呼んでもいいかしら？	6/30
1-14	1-259	Philip	いつの日かね。	6/23
	1-260	Oliver	景色がね、あの構図。実にうっとりする。とても、とても劇的で。山の高いところにいるから、峰を見上げれば雪が残っている、でも眼下を見渡せば、斜面に広がるオリーブの林が銀に輝いて、海が見える。	6/30
	1-262	Oliver	コリント湾の水面が見える。そこには何か目を見張るものがあるんだ。つまり、真に、真に美しいもの。するとわかってくる、なぜギリシャ人はそこを神託を聞く場所を選んだか。たぶんこれほど美しく静かな場所なら何かの訪れを感じられる。自分の時間から連れ出してもらえる、時間のそとへ。より大きな絵が見える、というか。—	6/30
	1-277	Philip	どうせ豚に真珠だよ。—	6/30
1-15	1-280	Oliver	うん、いつの日か、何年も何年も先のこともかもしれないけれど、いくつかのことがらが理解されるようになる、僕らに具わったいくつかの側面についてもっと深く理解される、いま僕らが感じる困難も、いま僕らがしがみつく恐怖も、いま僕らが眠れない夜も、無駄ではなかったと思える日が来る……その時代を生きる人々は、五十年先、五百年先かもしれないけれど、その理解のおかげで幸せになってる、賢くなってる。より善き人間に。	6/30
1-16	1-281	Sylvia	素晴らしくチェーホフ的ね。	6/30
2-6	2-90	Man	でもキモくてさ。いの。	6/30
2-8	2-126	Philip	マジでふざけんよ。—	6/28
	2-127	Oliver	これはべつに……	6/28
	2-128	Philip	俺はてつきり……	6/28
	2-129	Oliver	ヤベツッすねー	6/28
2-9	2-141	Philip	いい。すぐ行く。—	6/28
	2-142	Oliver	ゆっくりどうぞ。—	6/28
	2-143	Philip	ベッドルームにある。—	6/28
	2-144	Oliver	うん。ベッドの脇。—	6/28
	2-145	Philip	すぐ終わる。—	6/28
	2-146	Oliver	オッケ。—	6/28
2-10	2-162	Philip	終わり。—	6/30
	2-163	Oliver	よかった。—	6/30
2-11	2-167	Philip	どうかな。—	6/30
	2-168	Oliver	お願い。—	6/30
	2-170	Oliver	ああ、あれ。—	6/30
	2-171	Philip	そう。—	6/30
2-12	2-188	Oliver	お願いいて。—	6/30
	2-189	Philip	いたくない。—	6/30
	2-190	Oliver	お願い。—	6/30

2-15			間。―	6/30
	2-225	Oliver	だめ。―	6/30
			間。―	6/30
	2-226	Oliver	オッケー。こういうことなんだ。自分でもわからないことがあって。わかりたいけど、わからない。― 何かが僕のなかにある、ってゆーか。僕のDNAのなかに。―	6/30
2-16	2-227	Philip	なんなんだよ。―	6/30
2-18	2-268	Philip	君はあばずれだ、オリヴァー。頭悪すぎるあばずれだ。―	6/30
	2-269	Oliver	ありがとうございます。	6/30
	2-270	Philip	どういたしまして。―	6/30
2-19	2-292	Philip	どうせ男どうしだもんなっ、て考えた。みんな言うよね？ 男どうしだからだ。ゲイだからじゃない。男だから。男だからしょうがない。―	6/30
	2-293	Oliver	たしかにみんな言うね。―	6/30
	2-294	Philip	だけど俺には自分の感情しかわからない。あの晩ブリュッセルから戻ったとき、話聞かされたあと、ベッドに寝転んで天井見てた。あんな孤独を感じたのは生まれてはじめてだったよ。	6/30
2-22	2-319	Philip	行かないと。―	6/30
	2-320	Oliver	うん。―	6/30
	2-321	Philip	もういられない。―	6/30
	2-322	Oliver	うん。そうだね。―	6/30
3-1	3-9	Sylvia	今夜は楽しかった？	6/28
	3-10	Philip	実に楽しい夜だった。―	6/28
	3-11	Sylvia	本当に？	6/28
	3-12	Philip	ちょっと酔っ払った、あのひどいワインのせいだな。―	6/28
	3-13	Sylvia	三人ともよ。―	6/28
	3-14	Philip	でも申し分のない夜だった。―	6/28
			間。―	6/28
3-2	3-20	Philip	無口だと思ったなら、謝るよ。―	6/28
	3-21	Sylvia	そうじゃないの。責めてるんじゃない。ただの観察。―	6/28
	3-22	Philip	観察？	6/28
	3-23	Sylvia	大したことじゃないの……ちよっぴりふさいでるような気がしただけ。憂鬱そうな。―	6/28
	3-24	Philip	それは大げさだな。―	6/28
	3-25	Sylvia	気になることでもあるのかしらって。―	6/28
	3-27	Sylvia	そんなんじゃないの。―	6/28
	3-28	Philip	そう。―	6/28
	3-39	Philip	ないから。それはまあはっきりしてた。―	6/30
	3-40	Sylvia	気が合うと思ったのに。―	6/28
3-33	3-41	Philip	だってしょうがないだろう？ 相手は作家だし。とても知的で外向的、そうだろう？	6/30
3-4	3-54	Sylvia	まるで毛嫌いしてるみたい。―	6/28
	3-55	Philip	異議あり。―	6/28
	3-56	Sylvia	とことん嫌ってるみたい。―	6/28
	3-57	Philip	どう言っても、わかってもらえないんだね？	6/28
	3-58	Sylvia	オリヴァーがかわいそう。―	6/28
	3-59	Philip	彼を好きになることがどうしてそんなに大切なんだ？	6/28
	3-60	Sylvia	きっと気を悪くする。―	6/28
	3-61	Philip	どうしてそんなに大切なんだ？	6/28
	3-62	Sylvia	あなたが毛嫌いしてるんじゃないかと思ったら。―	6/28
	3-63	Philip	また大げさなことを。―	6/28
	3-64	Sylvia	忌み嫌ってるって。―	6/28
	3-65	Philip	どうしてそんなに大切なんだ？	6/28
			間。―	6/28
	3-78	Sylvia	ちがうの、あなたが仕事をしてるときに考えるの。昼間、ここにいて。この部屋に座って、お茶を飲んだりラジオを聴いたりしながら、仕事をしてるあなたのことを考えるの。あなたは茶色のスーツで、大きなアパートの部屋のすみにいる、お客さんは部屋を見て回ってる。そしてあなたは大きなドアに全部鍵をかけて、とぼとぼと会社に戻る。	7/2
3-5	3-81	Philip	なんて妙なことを言うんだ、そんなおかしいこと。	7/2
	3-84	Sylvia	だから考えたのあなたのことを、そして何があなたを幸せにするのか。	7/2
3-6	3-105	Sylvia	お願いだから。―	7/2
3-7	3-106	Philip	疲れてる。明日も一日忙しいし。―	7/2
	3-107	Sylvia	お願い、待って。すこしだけ。―	7/2

3-10	3-108	Philip	七時には起きないと。	7/2
	3-160	Sylvia	まるで重いインフルエンザ	7/2
	3-161	Philip	ほかに話したいことは？　もう行ってもいいかな？	7/2
	3-162	Sylvia	無理に引き留めたつもりはなかった。	7/2
	3-163	Philip	いてくれて君が頼んだんだ。どう見ても躍起になってた、その奇天烈で、奇妙な考えを伝えようと、それがすんだかどうか僕は単純に訊いてるだけだ。	7/2
4-2	4-13	Sylvia	あんた、ウンコみたい。	6/28
4-4	4-40	Oliver	いかにもハーレクイン・ロマンス。	7/2
4-5	4-56	Oliver	べつに会話とかしない。そいつの世界観認めたりしない。おっしゃるとおりホロコーストなんてなかったよね、とか言わない。しゃぶってやるだけ、そいつに投票するわけじゃない。	7/2
	4-58	Oliver	とにかくさ、あんたがいま選んだシナリオは最悪。変なマニアとか赤ん坊殺しとか。何でもいいけど。そんなの例外だよ。だって、男のほとんどは、サウナとかにいる男のほとんどは、あんたや僕と変わらない。だいたいなんでファシスト・マニア選ぶかな？　ピアニストで、お金を全部セーブ・ザ・チルドレンに寄付してる人かもしれないじゃん？	7/2
	4-94	Oliver	昔ゲイ雑誌の文通欄を見てたのね。ずっと昔。フィリップより前。そしたら一人目に留まってさ。こんな感じの——「ゲイ、三十三歳、ノンスモーカー、趣味はボンデージ、疑似レイプ、レザー、ラバー、チェーン、リミング、フェルチング。恋人募集中。それが僕の人生。	7/2
4-9	4-115	Oliver	洗んじやう。	7/2
	4-116	Sylvia	「洗んじやう」？	7/2
4-11	4-153	Oliver	べつに朝目が覚めたら敬虔なクリスチャンとかムスリムとかそういうものになってやるっていうんじゃない。いきなり頭ツルツルにしてお経唱えたりしない。だけど何かが必要なんだよ、何かの悟りが。だってさもないと、ほんと、サイテー、こんなのもたない。	7/2
4-12	4-154	Sylvia	何が？	7/2
	4-168	Oliver	ありがと。ありがと。ありがと。	7/2
	4-169	Sylvia	わたしにはわからない、なんで。どういうわけで	7/2
	4-170	Oliver	ほんとにありがと。	7/2
	4-171	Sylvia	——あんたは抜け出せないのか	7/2
5-1	5-3	Philip	ずぶ濡れじゃないか。	7/2
	5-4	Oliver	うん。	7/2
	5-5	Oliver	来るつもりはなかった。僕たち……	7/2
	5-10	Philip	二人で決めたんだ、こんなことよくないって。	7/2
	5-12	Philip	ずぶ濡れじゃないか。	7/2
	5-13	Oliver	ぼうっとしてて。	7/2
	5-14	Philip	びしょびしょだ。	7/2
	5-15	Oliver	図書館に傘を忘れて。	7/2
	5-21	Oliver	君に話さなきゃいけないんだ、フィリップ。	7/2
	5-22	Philip	まだ言うことがあるとは知らなかった。	7/2
5-2	5-26	Oliver	僕はどうしても……	7/2
	5-27	Philip	何？	7/2
	5-28	Oliver	何でもない。僕は思ったんだ……できれば……	7/2
	5-29	Philip	できれば何？	7/2
			間。	7/2
5-3	5-34	Oliver	僕は人生ずっと待っていた、何かの確証を、自分は一人じゃないっていう。	7/2
	5-35	Philip	そう。	7/2
	5-36	Oliver	それが見つかれば、その確証が見つかれば、二度と……僕は二度と——僕は来なきゃならなかった。君に会いに。ごめん。	7/2
	5-37	Philip	勘弁してくれ。	7/2
5-4	5-47	Philip	二人で決めたんだ。君は……僕はお願いした、そんな話はしないでくれて。	7/2
	5-60	Philip	たしかに倒錯だ。	6/25
5-5	5-69	Oliver	二人でいるとき。二人で会うたび。そのたびいつも。話をするとき。	7/2
	5-70	Philip	もう終わったことだ。	7/2
	5-71	Oliver	それ以上のものだって気づいた。徐々にわかった……	7/2
	5-72	Philip	勘弁してくれよ……	7/2
	5-73	Oliver	三人の人間のあいだに起きることは神聖なものにもなるんだって。そしてかけがえのないものに。その三人の人間が誰であるかは問題じゃない。	7/2
			間。	7/2
	5-75	Philip	たしかに間違いだ。	6/25

5-6	5-80	Philip	聞きたくない。	7/2
	5-89	Oliver	僕は思った、ああいう男たちのなかには、 君も見ればわかるはずだ、ああいう男たちのなかには、あ の薄暗がり を徘徊して待ってる男たちのなかには、選んでやってる人間もいる、たぶんたいていはやり たくてやってる、だけどそれは知らないからだ、どこで……どうすれば見つかるか、しかも自分はしよ せんそういう人間だって言われているから、自分は暗がりに立って誰かに触るのを、べつの男の肌に触 るのを待ってる人間だって、だから自分はそれだけの人間だと思い込んで、だけど彼らが求めている のは、彼らが本当に求めているのはそれ以上のもの、僕らがいま手にしようと思えばできるもの……だ れかとの深いつながりなんだ、せめてそこにしがみつくなことが出来たら。	7/2
5-7	5-91	Oliver	だって出会った瞬間から君だけが僕の本当の名前を知っていたように感じたんだ、 まるで君だけが僕 の本当の名前を知っていたように。	6/26
	5-93	Oliver	まるでおたがい僕らは同じ言葉を話しているような。	6/26
	5-94	Philip	でも僕はそうは感じない、オリヴァー。	7/2
	5-95	Oliver	本当に？	7/2
	5-96	Philip	そうだ、オリヴァー。僕はちがう。僕はちがう。僕はちがう。	7/2
			間。	7/2
5-8	5-97	Philip	なあ、オリヴァー、僕はシルヴィアを愛してる。シルヴィアも僕を愛してる。僕らは夫婦でお互い愛し 合っている。これまでのことは…… つまり僕らのあいだに、君と僕のあいだに、オリヴァー、 僕ら二 人のあいだに起きたことは単なる過ちだった。君が何と呼ぼうとかまわない。一瞬の弱さ。弱さ。それ だけだ。	7/2
	5-99	Philip	いろいろ言ったかもしれない、オリヴァー、でも残念ながらきっと本気じゃなかったんだ。だって、僕 は正気じゃなかった。取りつかれたようだった。ただわかってほしい、僕は君のことを悪く思っ てはいない。 うらみもない、悪意もない。愛情だってある。 君はまともな男だって信じてる。僕をそ そのかしたとも、誘惑したとも、悪気があったとも思わない。僕にだって責任はある。二人とも が過ちを犯したんだ。それだけ。君の幸せを祈ってる、オリヴァー。でも何が起きたかを思い出すと ……正気を取り戻したいまになって、 僕らのあいだに何が起きたか、 僕ら二人のあいだに起きたいろ んなことを思い出すと、恥じる気持ちでいっぱいになる。吐き気がする。	7/2
	5-103	Philip	もちろん、友人として思ってくれるのはいい。それは僕も同じだ。 君を好きになって尊敬するのはい い、尊敬しようとするのは、友人として。 でもそうじゃなくて……君がさっき話していたこと……そ ういう場所、そういう連中。	7/2
	5-105	Philip	そういう場所……さっき雄弁に語ってくれた場所。そいつらは僕とはちがうし僕もそいつら とはちがう。僕に正直になれと言うなら、オリヴァー、 正直に真実を言えってことなら、あ いつらには身の毛がよだつ。言いすぎじゃない。君には正直に言わせてもらう。 あわれだと は思うけど身の毛がよだつ。見たことはあるよ……実際よく見る。気づいてる。人ごみでも バスでも通りでも、僕は吐き気がする。あいつらの歩き方、人を見る目つき、 みんないっ しょだ。 僕はあいつらとはちがう、オリヴァー。そして君もきつとちがう。だからお互いこ のことは水に流さないと。それがいい。絶対にそれがいい。	7/2
	5-107	Philip	いつの日か感謝してくれるだろう。 理解してくれるだろう、 これはある意味、君を守るためだ ってことを。君自身から。 君はきつと理解する。 僕なりの妙なやり方だけど、これは僕から君への贈りもの だ。別れの贈りもの。	7/2
5-11	5-129	Oliver	だから、その夢を見るようになったのはいつだろう？ 十七歳、十八歳、いつ？ もしかすると大人の 男になろうとしていたころ。自分自身を見つけたころ。自分が本当は誰なのか、人生に何を求めている のか。大平原、君は思った。アフリカの大平原。悪い場所じゃない。そこにいる君が見える。この国は 狭い。君にはもっと広い場所が必要だ。深呼吸できる場所。だから君は旅立つ。僕には見える。ブライ トンより遠くへは行ったことがないって言っていたけれど、僕には見える、君ははるかかなたに いる。冷たい海峡を渡り、地中海を渡り、夢見たアフリカの大地に立ってる。そこで何を してる？ 農業？ 狩り？ 教師？ きつとそんなことはどうでもいい。そういう場所 で、そういう空の下で君はとうとう発見する、自分は何のためにそこにいるのか。 ひとりになっ てはじめて。	7/2
5-13	5-163	Philip	ごめん、ごめん、ごめん。	7/2
5-14	5-168	Philip	いいじゃないか。いま、ここで。こうなることが望みなん だろう？ 僕にこうなってほしいん だろう？	7/2